

中級編

中級編では初級編で作成した地図を基に、静岡県第4次地震被害想定(以下、「第4次被害想定」という。)や各種ハザードマップの情報を書き加え、その地域にどのような被害が生じるのかを具体的に検討します。

1 第4次被害想定を書き込む

まず、初級編で作成した地図の上に新しい透明シートを被せ準備します。

(1) 町丁目の境を区分する

町丁目の境をマジックでなぞり、区分します。

(2) 町丁目単位で、全壊する建物を塗りつぶす

ここでは、被災の規模を直感的に把握することを目的に、任意で建物を塗りつぶします。

本来は全ての建物について耐震診断を行い、総合評点の低いものから塗りつぶすのが理想ですが、なかなか難しいのが現状です。

(3) 丁目単位で、半壊する建物を塗りつぶす

全壊する建物と別の色を使いましょう。

2 地域に起こりうる被害を把握します

(1) 津波被害の把握

第4次被害想定やハザードマップを参照しながら、津波浸水域を確認し、その地域を斜線で囲みましょう。

(2) 土砂災害警戒区域(箇所)の把握

第4次被害想定やハザードマップを参照しながら、土砂災害警戒区域(箇所)を確認し、その区域を斜線で囲みましょう。

(3) 「どこで」、「どんな災害が」起こりうるかを表示します

上記の作業を踏まえ、付箋に「どこで」、「どんな災害が」起こりうるかを表示していきます。被害想定は全体的な被害の規模を理解するためには大変有効ですが、被害の場所や状況を具体的に特定するものではありません。そこで、参加者みんなで想像力をはたらかせ、地図上に表示していきます。

3 議論のポイント

これまでの作業によって、あなたの地域に起こりうる被害の様相が浮き彫りになったと思います。(被害様相の可視化)

参加者が議論するなかで、被害様相をお互いに正しく認識できているかを確認することが求められます。

また、議論のポイントとしては以下のようなことが考えられます。

- ・ 甚大な被害を受ける地域に、防災や災害救護に関わる重要な施設はありませんか？
- ・ 交通網が遮断され、孤立してしまう地域はありませんか？
- ・ 津波の到達時間、最大波高はどうなっていますか？
- ・ 避難所や避難場所が近くにありますか？
- ・ 避難経路が障害物で寸断される可能性はありませんか？

このまま何も手を打たずにいると、実際に災害が発生した際に、地図上に表示された被害様相が現実のものになってしまいます。では、このような災害に対してどのような対策が必要なのでしょうか？

発災後の対策で対応できないのであれば、あらかじめ被害が少なく済むようにする、すなわち災害に強い地域社会(コミュニティ)を作るためにはどうすれば良いのでしょうか？